

絶縁監視装置の動作確認方法

■絶縁監視装置の警報動作の確認

- ① クランプCT、電源コードを本器にセットします。
- ② 注入電流出力線(LANケーブル)を絶縁監視装置の変流器と本器のクランプCTに同じ向きになるように貫通させた後、本体にセットします。
- ③ 電源コード(プラグ)を使用する回路にクリップします。
- ④ 本器の電源スイッチをONします。
- ⑤ クランプCTを使用する回路のB種接地線にクランプします。
- ⑥ 「電気方式選択スイッチ」で使用する回路の電気方式(単相/三相)を選択します。
- ⑦ 「電流調節ボリューム」を左側最下点にします。
- ⑧ 「注入電流選択スイッチ」でIor(抵抗分電流)を選択します。
- ⑨ この状態で、回路のIor電流(抵抗分漏れ電流)を測定します。
- ⑩ ⑨で測定した回路のIor電流(抵抗分漏れ電流)を参考にして「電流レンジ選択スイッチ」で出力する最大電流値(10mA/100mA)を選択します。
- ⑪ 「電流調節ボリューム」(操作前は左側最下点とします)を右側へ少し回し、液晶ディスプレイ上のIor電流値が増加することを確認します。
- ⑫ 絶縁監視装置が警報動作するまで「電流調節ボリューム」を回します。絶縁監視装置が警報動作した際の液晶ディスプレイ上のIor電流値が警報動作点です。

■絶縁監視装置の警報不動作の確認

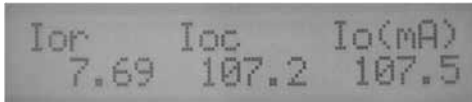
- ①～⑦まで上の絶縁監視装置の警報動作の確認と同じです。
- ⑧ 「注入電流選択スイッチ」でIoc(容量分電流)を選択します。
- ⑨ この状態で、回路のIoc電流(容量分漏れ電流)を測定します。
- ⑩ ⑨で測定した回路のIoc電流(容量分漏れ電流)を参考にして「電流レンジ選択スイッチ」で出力する最大電流値(10mA/100mA)を選択します。
- ⑪ 「電流調節ボリューム」(操作前は左側最下点とします)を右側へ少し回し、液晶ディスプレイ上のIoc電流値が増加することを確認します。
- ⑫ Ioc電流を増加させても絶縁監視装置が警報動作しないことを確認します。

画面の表示例

■測定画面

Ior、Ioc、Ioの測定値を同時に表示するので、効率よく作業できます。

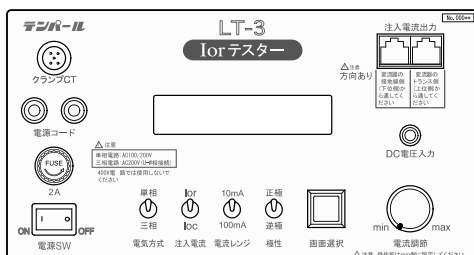
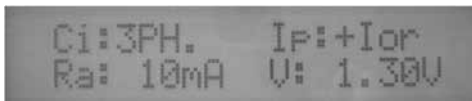
- Ior : 抵抗分漏れ電流
- Ioc : 容量分漏れ電流
- Io : IorとIocのベクトル合成値



■設定画面

電気方式、極性、注入電流等の設定を一目で確認できます。

- Ci : 電気方式(三相 : 3PH、単相 : 1PH)
- Ip : 極性(+/-) 注入電流(Ior/Ioc)
- Ra : 電流レンジ(10mA/100mA)
- V : DC入力電圧(0~3.00V)



LT-3価格

型式	ご注文品番	標準価格(円)
LT-3	LT300	オープン価格

オプション価格

内容	標準価格(円)
電源プラグ(大/2個1組)	別途お問い合わせください。
マグネットアダプタ(2個1組)	
DC電圧測定コード(1m)	

(注)納期は、別途お問い合わせください。